

平成 21 年度 第 3 回 文化財保護委員会会議録

■日時：平成 22 年 2 月 24 日（水）午後 7 時から午後 9 時

■場所：郷土資料館会議室兼資料取扱室

出席者：島村圭一委員長、中村誠二副委員長、新井浩文委員、長谷川清一委員、岩上孔昭委員

桐川弘子教育長、斎藤和浩室長、青木秀雄主幹、河井伸一主査、横内美穂主任

会議次第

1 開会

2 あいさつ

3 議題

(1)平成 21 年度郷土資料館事業報告

(2)文化財の指定候補について

(3)その他

会議概要

○平成 21 年度事業報告

- ・本年度の実績報告を事務局より報告した。

○文化財の指定候補について

- ・文化財指定候補について意見交換し、2 案を定例教育委員会に建議することとした。

○その他

- ・島村盛助関係の常設展示開設について説明した。
- ・和戸キリスト教会、学校の調査について意見を交換した。

会議録

あいさつ（島村委員長）

議事

島村委員長

平成 21 年度の事業報告からお願いします。

青木主幹

文化財保護事業推進からご説明します。文化財保護委員会ですが、指定文化財候補の検討ということで、今回を含めまして、年 3 回開催しました。文化財補助事業への補助では、五社神社防災設備点検事業への補助を行いました。調査関係では水塚、建築物等の調査を行いました。収集・整理では、諸家文書、行政文書、図書資料、写真資料、民俗資料などの収集・整

理を行いました。教育普及事業ですが、「日光街道を歩く・学ぶ」ということで計4回予定しています。定員を超えるほど多くの参加者が申し込まれています。

続いて埋蔵文化財発掘調査事業のご説明をします。試掘調査について10件ありました。発掘調査は百間小学校の遊具建設に係り地蔵院遺跡で行いました。中近世の土坑が9基検出されています。山崎遺跡は個人住宅建設に伴い縄文時代の住居跡が1軒検出されています。遺物整理作業では、昭和57年度、平成2年度の山崎山遺跡、平成15年度の伝承旗本服部氏屋敷跡遺跡、平成3年度の地蔵院遺跡、平成18・19年度の山崎遺跡の整理作業を行いました。埋蔵文化財発掘調査報告書の刊行としては、皆様のお手元にあります宮代町文化財調査報告書第14集「伝承旗本服部氏屋敷跡遺跡」の刊行を行いました。第15集「山崎遺跡・山崎山遺跡」については刊行に向けて努力しているところです。

次に埋蔵文化財発掘調査受託事業についてご説明をします。道仏土地区画整理事業に伴う発掘調査では道路部分と看板部分で発掘調査を行い、道路部分では縄文時代の土坑が15基、看板部分では縄文時代の土坑が8基検出されています。続いて整理作業では平成18・19年度道仏北遺跡と平成20年度の道仏北遺跡について行いました。

資料館管理運営事業について、展示関係からご説明します。特別展といたしまして「宮代の水害」を実施しました。企画展では「みやしろ歩け歩け」、「金原遺跡発掘出土品展Ⅲ」、「収蔵品で語る宮代の農耕」を実施しました。季節展示関係では、旧加藤家住宅において五月人形と雛人形を展示しました。現在、雛人形が展示中です。

講座・体験学習についてご説明します。企画展関連講座といたしましては「みやしろ歩け歩け～東条原～」ということで見学会を実施しました。3月には新井委員を講師として西原地区を歩く予定です。演劇としては移築民家と「アタラシイ」ゲキ5を実施しました。お話し会としては「かやぶき民家で聞く昔話」をみやしろお話し会スウスの方々にお話し会を実施しました。両方とも島村盛助関連の小説等を利用し行ったものです。夏休み体験教室としては「郷土資料館へ行こう！」を実施し、130名ほどの参加がありました。その他、縄文土器づくりや古文書講座を実施しました。

啓発・普及といたしましては、総合学習・学校見学の対応、中学生社会体験チャレンジ事業として須賀中と杉戸中から生徒を受け入れました。学芸員実習の受入れなどを実施しました。また、資料館だより「えんがわ」を3回発行しました。その他に資料館内利用申請、資料館外利用申請、団体利用申請、収蔵資料貸出・掲載許可申請の受入れを実施しました。

くん蒸消毒関係では、収蔵庫のくん蒸を実施しました。また、教育長の挨拶にもありましたが、常設展示室に島村盛助関連の展示コーナーを新設する予定です。本年度の事業報告は以上です。

横内主任 補足といたしましては、昭和30年代と昭和40年代の雛人形を旧加藤家で行っていますが、今年は新しい村の講座で行っていた「香りのつるし雛づくり」について受講生の作品展を旧斎藤家住宅で行う予定となっています。これによりまして旧加藤家と旧斎藤家で新旧のお雛様の共演ができることとなりました。島村盛助関係の展示といたしましては現在パネル等の原稿は展示業者の方に渡してありまして、現在展示ケースの作成を行っている状況です。オープニングの時にはできるだけ原資料を展示したいと思っています。また、新たに島村家より寄贈頂いた資料の中には岩波英和辞典の校正のゲラなどもあり、こちらも追加で脱酸処理をする予定となっています。

島村委員長 ここまでで質問があればお願いします。

新井委員 古文書講座10名とありますが、定員は何名なのですか。県立文書館などで行うと沢山の人が来ますが。リピーターの割合はどれくらいですか。

河井主査 定員は20名です。宮代町は3万3千人の町ですので。多い時で15、16名です。リピーターの割合は6割くらいでしょうか。

新井委員 脱酸処理の件なのですが、脱酸処理をしたということを表示したりすることは考えていますか。

横内主任 考えていません。

新井委員 脱酸処理をした例は極めて少ないので、何かの機会に展示してもらいたいと思います。広報で周知してもよいのではないのでしょうか。

長谷川委員 山崎遺跡で検出された住居跡の時代はいつですか。1軒すべて検出されたのですか。

河井主査 縄文時代後期前半堀の内2式期です。約3700年前です。全体の1/5位です。

長谷川委員 道仏北遺跡の関係ですが、土坑の時期については縄文時代前期中葉から後半の時期ということでよいですか。

河井主査 まだ、洗っただけで詳細な分析は行っていませんので分かりませんが、恐らく縄文時代前期中葉から後半と考えています。平成18・19年度の時代と恐らく同じような内容と考えています。

長谷川委員 啓発普及ですが、チャレンジ2DAYSの仕事内容を教えてください。

河井主査 土器の洗い、注記、拓本と旧加藤家住宅の清掃、講座の手伝いです。

島村委員長 それでは、次に文化財指定候補について検討したいと思います。前回の会議で前原遺跡出土の石器と関根家文書について事務局が調書を作成す

るということになっていましたので、事務局説明お願いいたします。

青木主幹

まず、前原遺跡旧石器時代出土石器ですが総点数 89 点で報告書に掲載されているものということになります。ご承知とは思いますが、前原遺跡は昭和 55 年 3 月から 56 年 3 月にかけて発掘調査が行われ、旧石器時代や縄文時代早期前半を中心とした遺構が発掘されています。この旧石器時代の石器群は台地先端部のローム層中から 2 箇所で見つかりました。2 時期の文化層から発掘され、それぞれ出土した黒曜石の産地は栃木県の高原山と長野県の和田峠と違うことが明らかとなっています。発掘当時としては非常に珍しく大宮台地の旧石器時代について学史的な意味合いからも重要であるといえます。

中村誠委員

発掘調査時は大宮台地でも珍しく学史的にも貴重なものといえますので指定の方向でよいのではないのでしょうか。

長谷川委員

前原遺跡は発掘調査が古いこともあり報告書等で引用されることも多いといえます。名称については前原遺跡旧石器時代出土石器ではなく、前原遺跡出土旧石器時代石器か前原遺跡出土旧石器時代石器群のどちらかの方がよいのではないのでしょうか。

中村誠委員

前原遺跡出土旧石器時代石器群の方が良いかもしれませんね。

島村委員長

名称は前原遺跡出土旧石器時代石器群ということにしましょう。研究史と産地との関係から教育委員会に指定文化財候補として建議したいと思いますが宜しいですか。

一同

了承。

島村委員長

続きまして、関根家文書について説明をお願いいたします。

河井主査

関根家文書は百間金谷原組の名主家文書です。点数は枝番を除き 612 点です。江戸時代中期から明治時代のものですが、江戸時代のは 149 点で、江戸時代中期の名主時代のは約 40 点です。関根家は宝暦 9 年から文化 10 年頃まで約 60 年間 3 代に渡り名主を勤めていたことが分かっています。初めて発見された江戸時代中期の岩槻城絵図や下の谷新田絵図も確認されています。この他、杉戸宿本陣の絵図や大島村絵図や今の越谷市や春日部市等の村の絵図も確認されています。

新井委員

明治初年の越谷市付近の絵図が残っている理由は为什么呢。

河井主査

その辺にも土地を持っていたと聞いています。

島村委員長

収集したということはありませんか。

河井主査

収集したという伝承もありませんし、収集したような感じは文書を整理していく過程でもありませんでした。

新井委員

岩槻城絵図は伝世品で間違えありませんか。百間金谷原組が岩槻藩領の時代はありましたか。

河井主査 収集はしていないと思います。江戸時代中期の小笠原氏段階では岩槻藩領でした。

島村委員長 宮代町ではどの範囲が岩槻藩領だったのですか。

河井主査 百間金谷原組、百間西原組、須賀村の一部、西条原村が岩槻藩領でした。元禄10年から正徳元年位までの時代です。

島村委員長 関根家はその頃、名主だったのですか。

河井主査 多分その頃は名主ではないようですが、文書が残っていないため、どこの家が名主であったか分からない状態です。

島村委員長 前の名主から岩槻城絵図を引き継いだ可能性もありますね。

河井主査 宝暦から名主を勤めだしますので、元禄や正徳でも相当な資産家であったため、岩槻藩主に寄付した際、私的に岩槻城絵図を貰った可能性もあると思います。

新井委員 今回の関根家文書は名主家時代の文書と岩槻城絵図がメインとなります。岩槻城絵図は収集したものでないなら、指定理由の所で岩槻藩領時代に貰った可能性があるということも触れておいた方が良いでしょう。

河井主査 分かりました。

島村委員長 この文書群は寄贈ですか。この家は以前、古文書調査の時行きましたよね。整理状況はどうですか。

河井主査 寄託です。たしか調査に行ったと思います。整理状況としては全て終了し目録も作成しています。最初の収集時のものはマイクロフィルムの作成もすんでいます。この家は九郎兵衛、七郎右衛門という人が名主を勤めていました。現在でも屋号で七郎様とか七郎名主と呼ばれています。「埼玉の神社」に詳しく言い伝えが記載されています。

島村委員長 この文書群で残っていないものが、名主を引き継いだ折原家にあるということなのでしょう。

河井主査 関根家文書は初めの頃の宝暦年中のものは結構残っていますが、後半の文化文政期のものが却って少ないといえます。

島村委員長 古いものは次の名主の折原家に引き継がれなかったのでしょうか。

新井委員 文書は過去10年とか決められて次の名主に引き継がれます。今使うもののみを引き継いだようです。折原家と関根家の名主を勤めた年代の調査はしましたか。

河井主査 調査は行いました。関根家が確実に名主を勤めていたのが確認できるのは文化10年までです。文政元年には折原家は名主代でありますので、関根家が名主を勤めていた可能性は高いと考えています。折原家が名主として確実に確認できるのは、文政6年からです。話は変わりますが、例えば江戸時代中期の岩槻城絵図自体が他にないものですので、伝世あるいは収集

したに関わらず指定というわけにはいかないですか。

新井委員 勿論良いですが、文書群から分けて岩槻城絵図を単品の指定でよいのではないかという議論になりますので、伝世した可能性を指定理由で触れる方が良いとおもいます。

河井主査 分かりました。

島村委員長 それでは、新井委員の指摘のとおり、指定理由を直した上で、関根家文書を指定文化財候補として教育委員会に建議して宜しいですか。

一同 了承。

長谷川委員 話が戻ってしまうのですが、所有者の所なのですけど、教育委員会ではなく町ではないでしょうか。春日部市でも議論になったことがあり、以前は教育委員会の所有ということで事務を行ってきましたが、現在は市の所有ということになっています。

青木主幹 春日部の例規を含め教えてもらえますか。

長谷川委員 それでは、近日中に連絡します。

島村委員長 次に、前回の調査やその他何かありましたら発言お願いいたします。意見交換の場所とさせて頂きたいと思います。

青木主幹 前回の調査は和戸キリスト教会から実施しました。貴重な資料を見せて頂き、その後の文化財保護委員会の会議の際、まず、資料リストを作成し、来年度以降の指定文化財候補として検討したいとのことから、『和戸教会125年史』の中にありました資料リストを配布いたしました。

新井委員 これは、聖書などの典籍ですよね。人名簿等の文書もありましたよね。文書については把握していますか。

横内主任 和戸キリスト教会関係の資料は平成7年位に1度目の調査を行いまして一部の文書の写真撮影を行っています。2度目は平成14年度の特展に係り資料を借用し文書のマイクロフィルムを撮影していますが、聖書等の典籍の撮影は行っていません。整理の状況は中性紙の封筒に入れお返しした状況です。

島村委員長 和戸キリスト教会の資料については消失することはありませんが、将来の指定文化財候補として町として把握する必要があります。五社神社の俳額や姫宮神社の絵馬も以前に比べ色落ちしている感じがしました。

横内主任 五社神社については今度総代の横溝さんに聞いてみたいと思います。

岩上委員 学校所有の資料なのですが、散逸される可能性がありますので、指定文化財にするかどうかはともかく、検討して頂ければと思います。学校は校長を始め人が変わりますので、資料として意識しない校長等がいる時に資料を捨ててしまうことがあります。学校の校長等が変わっても保存できるような仕組みを検討する必要があります。今日皆様方にお配りしたのは、

須賀小学校が所有する歴史資料のリストとカヤの木、カエデの木の調査成果です。ちなみに学校の永久保存は「学校沿革史」のみです。

島村委員長 指定する程ではないかもしれませんが、将来的に学校の展示をする際にも利用できると思います。

岩上委員 須賀小学校は最近門柱を改装して昔の門柱を壊してしまいましたが、百間小学校は昔の門柱を体育館の裏で使用しています。須賀小学校のカエデの木は学校が全然剪定をしないため、上の方が伸び放題となっています。また、カヤの木の広さはあれで本当に良いのか心配になります。

島村委員長 須賀小学校の樹木についてですが、何か他にありますか。

河井主査 前回の保護委員会の際に、樹木医に見てもらった方が良いという話でしたので、来年度実施したいと思います。その時には岩上委員にも立ち会って頂ければと思います。岩上委員の学校所有のリストをみると須賀村時代の門標があるなど驚きました。須賀小学校だけでこれだけ出てくるのだから、他の小学校についても調べて、何があるのかを把握する必要がありますね。

岩上委員 学校の調査については教育委員会の方から学校へ指示して頂けたらと思います。

青木主幹 校長会とか教頭会で説明したいと思います。具体的にこのようなものを探しているという形で説明できればと思います。

新井委員 平成 24 年度は学制施行 140 年ですので、それに合わせ、企画展を企画し、学校所有の資料調査を行ったらどうですか。

長谷川委員 庄和町時代には町史編纂に伴い学校の調査を実施しました。

河井主査 学制施行 140 年での特別展の開催は、学校所有の資料を調べる良いきっかけかもしれませんね。それでは、長谷川委員、庄和町時代の学校の調査方法等を後日教えてください。

長谷川委員 分かりました。

島村委員長 それでは、議事が終わりましたので、事務局へお返しいたします。

青木主幹 それでは、以上をもちまして、平成 21 年度第 3 回文化財保護委員会を終了させていただきます。